

# 北海道短期大学

専修大学北海道短期大学ホームページ <http://www.senshu-hc.ac.jp>

メールアドレス  
nyushi@senshu-hc.ac.jp  
ダイヤルイン  
(入試関係)  
0126-63-0123

## '09 OPEN CAMPUS

6/27(土)  
7/25(土)  
8/2(日)

開催時間  
11:00~14:30

プログラム

- ・学 科 説 明
  - ・学 校 見 学
  - ・個 別 相 談
  - ・体 験 授 業
  - ・学 食 体 験
- オリジナルグッズプレゼント

●当日は、JR札幌駅北口・美咲駅西広場より送迎バスを運行します。  
●交通費補助制度があります。詳しくは入学試験係までお問い合わせください。

# 「学市学座」出品が好評

## 専大ファームの成果



▲ 全国の主要30大学が参加した「学市学座」(紀伊國屋書店札幌本店で)

### 「黒大豆ドーン」予定の10倍 売上数はナンバーワン

全国の主要30大学が参り独自の加工食品などを加し、オリジナルグッズ販売する「学市学座」が4月8日から12日まで、紀伊國屋書店札幌本店で開催された。本学からは専大ファームで生産



「学市学座」In Sapporo 売行きNO.1!! 専修大学 黒大豆ドーン

・加工された化学肥料・農薬不使用の「韃靼そば」。「そと、情報・文化発信基地である書店店頭を結びつ豆ドーン」の、新たな活動空間をつくり出そうと、同書店と3点を出すと、同書店と複数の大学が参加した品。中でも「黒大豆ドーン」は製造が追いつかないほど好調な売れ行きで、予定の10倍の売り上げ数を記録し、全年度から「有機無農薬栽培



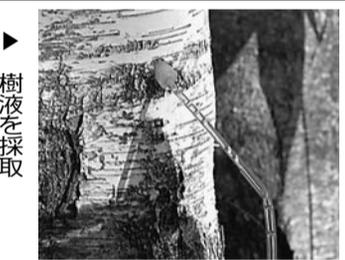
▲ 本学の出展コーナー

商品中売上「黒大豆ドーン」の認定を受ける予定。今後、同ファームの活動に期待が寄せられている。

## シラカバの樹液を活用

### みどりの総合科学科 自然の甘味料探し

みどりの総合科学科環境緑地系の岡田准教授



▲ 樹液を採取



▲ 演習林で採取と調査に励む学生たち

シラカバの樹液を抽出する。抽出液は、抽出源の利用法を探る実習を行った。

シラカバの活用については4年前から試行錯誤を繰り返しており、卒業生らも「おいしい」という感想が聞かれた。

岡田准教授は「こういった身近にある森林資源の活用方法を提案できれば地域貢献にもつながる。シラカバの樹液にはキシリトールが含まれ、体にいい。また、自ら感じた疑問を掘り下げ、卒業研究として『やり遂げる』ことで得られる経験や自信が卒業後、社会でしっかりと役立つはず」と話した。

採取された樹液は、冷凍保存し、オープンキャンパスなどで試飲が行われる予定。



▲ 幹に角度をつけてドリルで穿孔する

研究のテーマとして取り組んだゼミ生もいる。今回の実習では、今後得られたデータをまとめる、検証を加えて「ゼミ生のほとんどが緑地、森林、景観をテーマに卒業研究に取り組みたい」という声も聞かれた。

また、ゼミ活動について「ゼミ生のほとんどが緑地、森林、景観をテーマに卒業研究に取り組みたい」という声も聞かれた。

## 美唄クリーンアップ作戦

▲ 歩道や路肩のごみを1時間かけて拾った



## 学生20人がゴミ拾い

### ボランティア活動軌道に

学生部の呼びかけで「美唄クリーンアップ作戦」が4月28日に行われた。日ごろ利用している通学路をきれいにするという目的で、学生20人が参加。放課後、玄関前に集合した学生たちは、学生部の山本補將教授、久保崇准教授らと共に、2人1組に分かれ、各組1キの担当範囲を清掃した。約1時間間にわたり、歩道や路肩

に捨てられた空き缶やペットボトル、紙くずなどを分別しながら拾っていた。

最後に山田正範学生部長からねぎらいの言葉があり、トラックに積み込んだごみを集積場まで運搬。参加者たちはきれいな通学路を眺めながら、すがすがしい顔で帰途についた。

なお、この活動は専門基礎科目「ボランティア活動」の単位の一部に換算される。



▲ 小麦「春よ恋」の播種準備(4月20日)

このころには馬鈴薯を播き終えていま。その後、カウが鳴き始める。と大豆を播き、続いてとうもろこしを播く。

今年もおいしい農産物を



▲ 天候が良く、現在は小麦の芽が出ている

遅霜に遭うことがありません。播種と移植のすべてが終わると学生と教員、関係者で「苦勞」をねぎらいます。

先日、有機農産物登録認定機関の財北農会有機農産物検査・認証センターから検査員が2人来学し、完璧に有機栽培が行われるかどうかを確認するため、農場と栽培計画を厳しく検査していきます。

「かぼちゃ、そばを恒例の焼き肉による「播きつけ祝い」を行います。今年には、そば、冷麦用小麦の面積を増やしたため、それ



第15回